

2006 年度

科目名 文化財学特殊研究（文化財形態論）	対象学科・学年 研究科文財(前)1 回生 研究科文財(後)1 回生	担当者 阪田 宗彦
授業テーマ 上代工芸論（正倉院宝物）		
授業の概要と目標 上代工芸は国際性豊かな盛唐文化を垣間見させるもので、その中核を占める正倉院宝物に勝るものはない。本講では個々の宝物に視線をあて、素材・意匠・技法・装飾文様について詳述し、宝物そのものの理解を図るとともに、8 世紀の唐文化の受容の一端を探る。 スライド、DVD、VHS を使用する。		
評価方法 受講態度および研究成果によって評価する。		
テキスト 使用しない。必要に応じてプリントを配布する。	著者	出版社
参考書 使用しない。	著者	出版社
授業スケジュール・内容 1. 序章 2～5. 北倉納物 6～9. 中倉納物 10～14. 南倉納物 15. レポート 16～19. 帳内御物と献物帳 20. 宝物にみるインド的要素 21～23. 宝物の持つ国際性 24～26. 宝物にみる新羅的要素 27～29. 21 世紀における正倉院宝物の伝存の意義は？ 30. レポート } 素材・形状・制作技術・意匠・文様等を詳述。		